

風土記の丘の花だより¹⁹¹

今、そしてこれから見られる植物(2023年6月24日)

梅雨の中休みはとても暑かったですね。今の季節は、降ったら降ったで、照ったら照ったで、体調管理が大変です。山歩きも健康あってこそ、お互い気を付けましょう。



今回は小さな花から紹介しましょう。ヤブコウジの花です。草のように見えますが、これでもれっきとした木です。冬の間は真っ赤な実が目立ちましたが、花は実ほど目立ちません。薄いピンク色でうつむき加減に開きます。万葉植物園の至る所(ちょっと大げさかな?)に生えています。葉は常緑でつやがあり、庭に植えられているのもよく見ます。センリョウ・千両やマンリョウ・万両などと同じように洒落て十両と呼ぶ人もおられます。何はともあれ、おめでたい名前ですね。サクラソウの仲間です。



ウリクサの花は上のヤブコウジよりも更に小さめです。色は少し青みがかった紫色です。少し湿り気味の地面に張り付くように生えます。これも万葉植物園で撮影しました。ヤブコウジを撮って、振り向いたらこれが生えていました。よほど気を付けていないと見逃すか、踏みつけてしまうか、その程度の草です。でも、花はよく見るととてもすてきな色と形です。もう少し大きければ、みんなに見てもらえるのに……と思うのは私たち人間だけかもしれませんね。この色や形、大きさが一番ウリクサらしいのでしょうか。



この黒っぽい花はコクランです。漢字で書くと「黒蘭」、黒ではありませんが、確かに黒く見えます。梅雨の時期にこんな地味な、というかシブい花を咲かせます。ランというと一般的に華やかなイメージがありますが、こんなランもあるのです。にもかかわらず、このランも例にもれず盗掘の対象になっています。気を付けて探せばあちこちで見つかりますが、見るたびに「今年も無事だったか」とホッとします。ランで掘られないのはネジバナぐらいです。



最後はつる植物のアオツヅラフジです。他の木やフェンスなどに巻き付いています。誰も気につけないどころか、時として厄介者となる植物です。この花もとても小さいです。雌雄別株で、それぞれに雌花と雄花が咲きます。といっても外見ですぐにわかるものではありません。写真は雄花で中にめしべがありませんが。雌花にはちゃんとめしべがあります。雌株には秋になると白い粉をふいた黒っぽい丸い実ができます。「ツヅラ」とは昔の物入れ「葛籠・づづら」のことで、このつるで編んだことによります。 松下